

## 薩摩硫黄島の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）が継続＞

6 月 13 日に、九州地方整備局が撮影した映像を福岡管区气象台で解析したところ、硫黄岳東側斜面上部の噴気孔が拡大しているのを確認しました。

### 【防災上の警戒事項等】

硫黄岳火口から概ね 1 キロメートルの範囲では噴火に伴う大きな噴石を警戒してください。風下側では降灰に注意してください。火山周辺では、火山ガスに注意してください。

### ○ 活動概況

#### ・上空からの調査（図 1～3）

6 月 13 日に九州地方整備局が撮影した映像を福岡管区气象台で解析したところ、前回（2012 年 12 月 26 日海上自衛隊第 72 航空隊鹿屋航空分遣隊の協力により実施）に比べ硫黄岳東側斜面上部の噴気孔が拡大しているのを確認しました。6 月 3 日から 5 日にかけて発生したごく小規模な噴火時に、この噴気孔から火山灰を放出した可能性があります。

#### ・地震・微動・噴煙の状況（図 5）

火山性地震、火山性微動の回数は少ない状態で経過しています。噴煙活動は、6 月 6 日以降は白色の噴煙が火口縁上 400m まで上がりましたが、特段の変化はみられませんでした。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、京都大学、九州地方整備局のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報』、『数値地図 10mメッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図 1 薩摩硫黄島 火口の状況

6 月 13 日に九州地方整備局が撮影した映像を福岡管区气象台で解析したところ、硫黄岳東側斜面  
上部の噴気孔が拡大しているのを確認しました（赤丸）。



図 2 薩摩硫黄島 火口の状況

写真②：6 月 13 日に九州整備局が撮影した映像を福岡管区气象台の解析で、拡大しているのを確認した噴気孔（赤丸部分）。

写真③：2012 年 12 月 26 日に海上自衛隊第 72 航空隊鹿屋航空分遣隊の協力により上空から撮影した東側上部噴気孔。

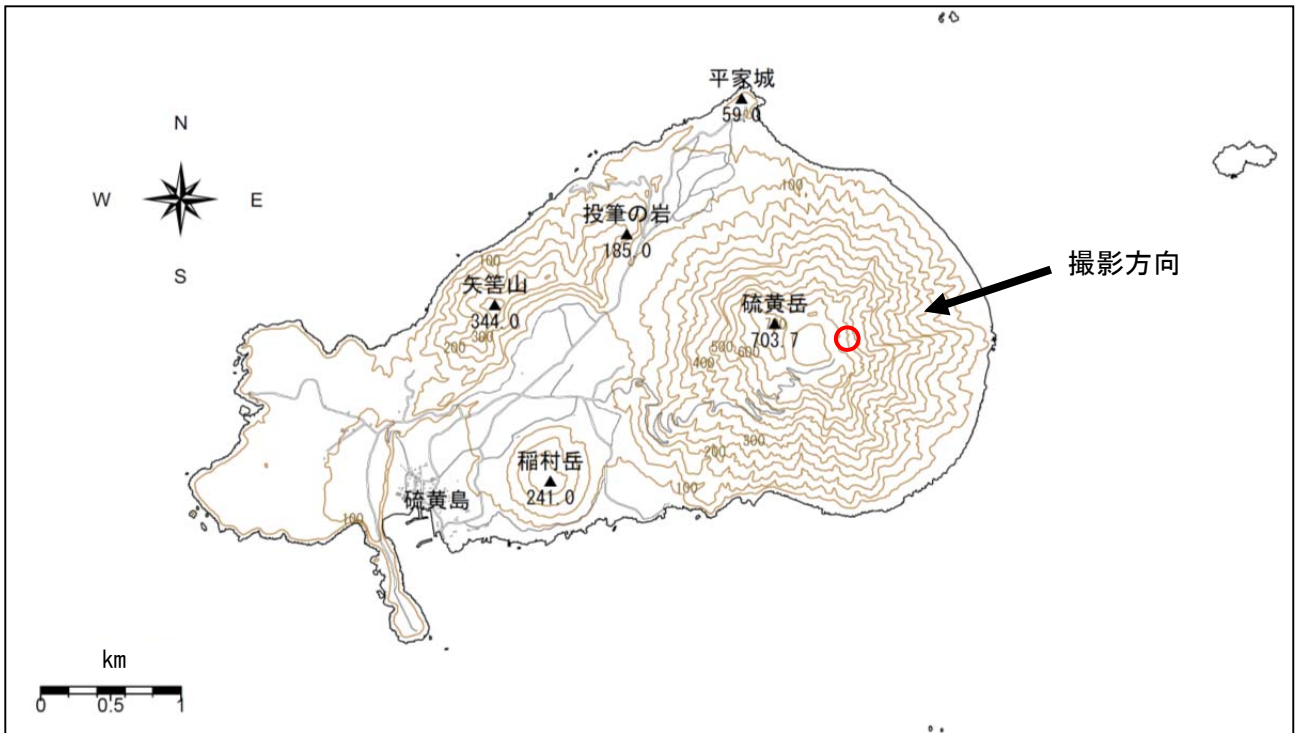


図 3 薩摩硫黄島 写真の撮影方向

矢印は、図 1、図 2 の上空からの撮影方向を示し、赤丸は噴気孔の位置を示しています。

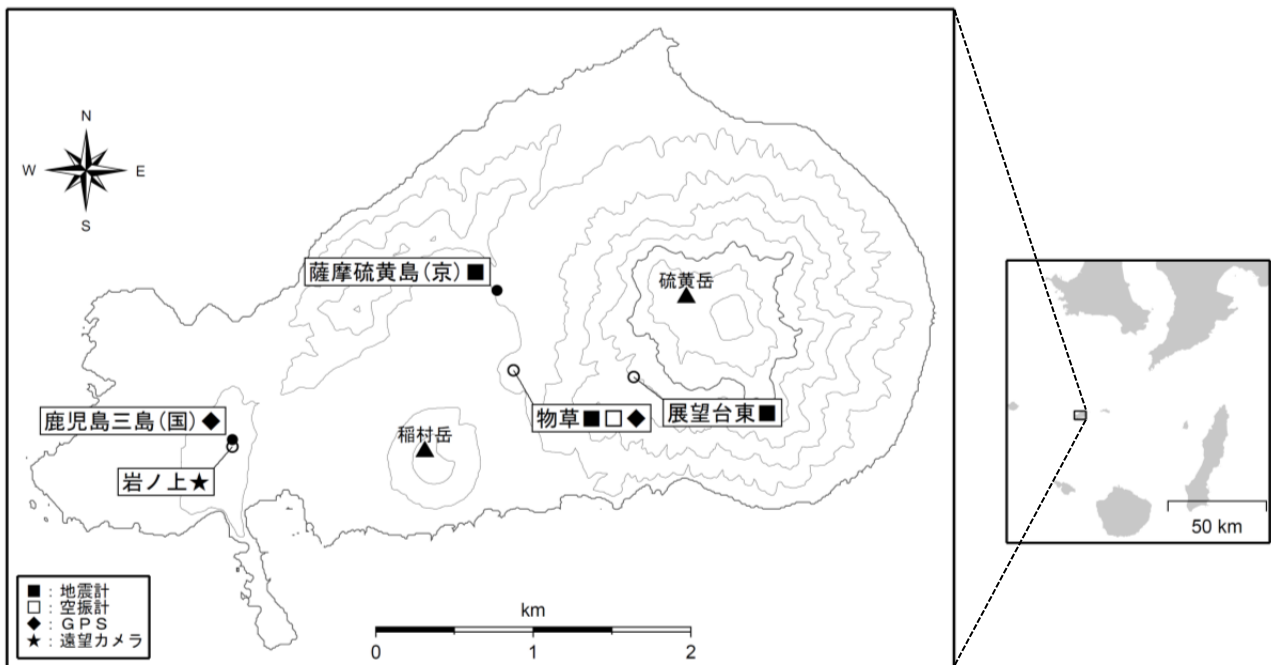


図 4 薩摩硫黄島 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(京)：京都大学、(国)：国土地理院

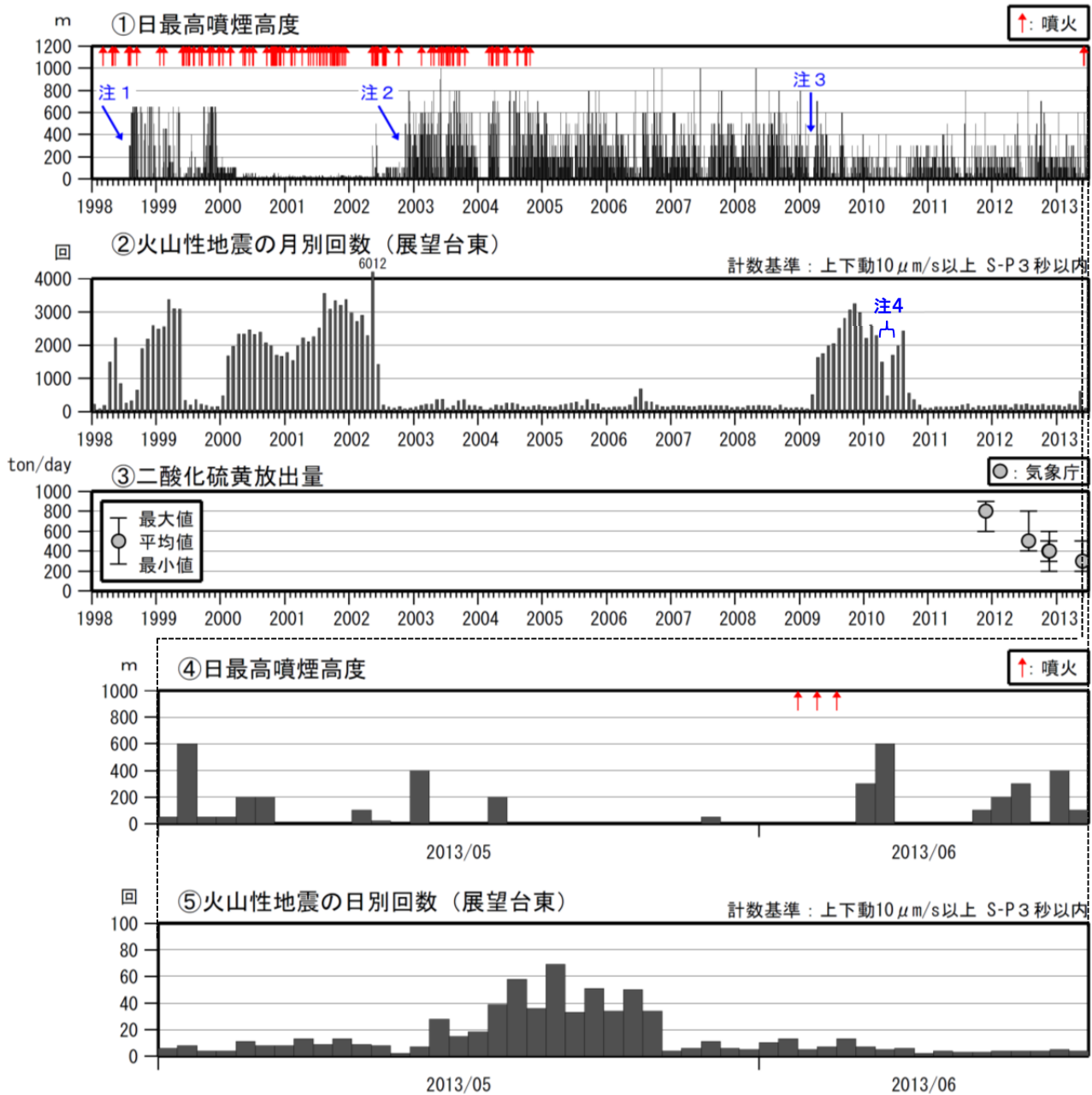


図 5 薩摩硫黄島 火山活動経過図 (1998 年 1 月～2013 年 6 月 17 日 15 時)

- ・火山性地震、火山性微動の回数は少ない状態で経過しています。
- ・噴煙活動は、6 月 6 日以降は白色の噴煙が火口縁上 400m まで上がりましたが、特段の変化はみられませんでした。

注 1 1998 年 8 月 1 日 三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。  
 注 2 2002 年 11 月 16 日 気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。  
 注 3 2009 年 2 月 23 日～3 月 21 日 遠望カメラ障害のため噴煙は不明。  
 注 4 地震計障害のため火山性地震及び火山性微動の回数が不明の期間があります。